



技術者の総意を結集して

取締役 技術本部長 内野 洋 一

東洋曹達が総合化学会社として、積極的に展開した昭和40年以降の研究報告巻頭言の執筆者のリストを一覧すると、研究開発業務に直接関与したことの無い製造関係の技術屋が、本誌の巻頭言を担当させられるのは今回が初めてであり、このことは素直に解釈して、多少泥臭い意見を述べさせていただきます。

化学企業の人材は事務系と技術系よりなっており、技術系は化学屋を主体として、機械、電気、土建など、各種の分野の技術者で構成され、それぞれの専攻学科と卒業後の経歴によって特徴があります。学生時代に化学系の教授から、工学部では数学の得意な順に、電気、機械、化学に進むと叱咤されたことがあります。差障りがあったらご勘弁願うとして、製造部門で化学プラントの操業に対し、概して化学屋は限界条件・経験のない試みに勇敢に挑戦をするが、機械屋さんは既存の公式で答でない現象に対しては慎重なことが多く、電気屋さんの場合は安全係数を見込んだ数式に一層忠実な傾向があると思います。このような物の見かたは化学系の妬みであるかもしれませんが。

同じ化学系の技術屋でも、さらに細分化された専門があり、また研究所でスペシャリストとして研究に専念してきた人と、製造現場でたたきあげられた者とは当然違っています。「化学と工業」に最近掲載された「化学系卒業生の企業での仕事の満足度」のアンケート調査で、企業の研究開発部門では化学系卒業生の62%が化学と非常にかかわった仕事をしているのに対し、製造部門では化学と非常にかかわっている人が16%と少ないにもかかわらず、現在の自分の仕事に対する満足度は、研究開発担当者より製造関係者の方が高いという微妙な結果が出ています。

研究の化学屋には深い学識と基礎理論を持った論客が多いが、会社全体の組織とか、仕組みとかに比較的無関心なように感じられます。反対に製造の化学屋は事の大小は別として毎日が決断の繰返しのために経験と感は豊富に蓄積されますが、日常の運転業務に満足して、担当以外の研究などの仕事に関心の少ない人が多いようです。

現在は研究開発の仕事を製造・販売などの人がもっとよく理解し、これに協力・支援することが大切であり、私自身の反省にもなるのですが、それぞれ違った立場にある人の総意も結集すべき時であると思います。また研究部門の人は他部門の人々の特徴をできる限り知り、これらを十分に活用して、研究開発に専念され、その成果をあげられることを期待します。